

## 虫は自然のおもちゃ箱

伏見区 大西

数年前のことである。2人の娘が相次いでパートナーを見つけて結婚した。子供が巣立つまでの親としての責任を果たし、感無量であった。ところが、「ホッ」とする間もなく、次々と孫の誕生の知らせである。おかげさまで5人もの孫に恵まれている。週末遊びに来てくれる。家にくるなり「ジジ、あそぼ。ジジ、お風呂に入る」といって誘ってくれる。孫は「かわいい」とよく言われるが、同感である。

ところが、この孫たちで困っていることがある。虫が大嫌いなのである。我が家の周辺は、まだ竹やぶや草地がある。色々な虫が室内に入ってくる。小さなアリを見つけようもするなら「ムシ、ムシ」との孫たちの悲鳴にも似た叫び声が聞こえる。都心部の自然環境が少ないマンションに住む孫たちには、ムシは見慣れない恐怖の生き物と映るのかもしれない。

私の子供の頃は、ムシは格好の遊び相手であった。家の近くでの畑や水田でイナゴやバッタを取って遊んだ。また、時には数キロメートルも離れた雑木林まで歩いていき、カブトムシやクワガタ取りに挑戦した。多くの場合、それほど成果があがることはなかったのだが、心をワクワク、ドキドキさせる瞬間であった。この心を孫たちにも感じてもらいたい。そこで、ジジが孫たちにムシとの遊び方を教えることにしよう。

孫たちは主人公が掛け声とともにヘンシンし、怪獣などをやっつけるテレビ番組が好きだ。ミクロな世界であるが、自然にはアニメ番組に負けないヘンシンの技があることを孫たちに教えてあげたい。まず、身近なところでダンゴムシを体験させよう。植木鉢周辺でダンゴムシを集め、手のひらにのせることから始めてみよう。そして、わずかな刺激でクルクルと体を丸めてしまうことを観察させよう。なかなか見事なヘンシンである。いつもなら植木に芋虫がつくのは困りごとの一つなのだが、今年は植え込みのクチナシにアゲハが産卵にくることを期待してみよう。卵が幼虫に、幼虫がさなぎに、さなぎが成虫にヘンシンする様を見ることができたなら、孫たちは感動してくれるに違いない。「虫は自然のおもちゃ箱」である。

子供の頃の「虫と接する、虫と遊ぶ」といった体験の積み重ねが自然に目をやり、自然を大切にすることにつながるような気がする。今、地球環境の問題が色々と取りざたされている。自然環境の保全も重要な課題である。ジジから孫への虫を題材にした環境教育も、うまくいけば自然環境保全に向けた小さな取り組みの一つになるかもしれない。